

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°49 ドメーヌ・レ・ドゥーテール

生産地方：アルデツシュ

新着ワイン3種類♪

VdF ポラティム 2014 (白)

2013年同様、2014年も力強さの中にエレガントさと上品な輪郭を兼ね備えたワインに仕上がっている！
 前回は樽によって発酵のスピードがまちまちで、結局発酵が終わるまでに18ヶ月を要したが、今回はその教訓を生かして、ブドウをプレス後すぐに樽には入れず、ステンレスタンクでまず発酵を促し、発酵に勢いが出た時点で樽に移した！まるでムルソーを彷彿させるような果実のふくよかさとキメの細かい洗練されたミネラルがあり、余韻に残る焼き栗のような風味が食欲をそそる！

VdF ヴァン・ニュ・マセラシオン 2014 (白)

2013年は若木のヴィオニエが20%入っていたが、2014年はヴィオニエが雹の被害に遭ったため、グルナッシュブランとユニブランのブレンドとなっている。ブドウは全て手で除梗。前回までマセラシオンの温度を15℃に設定していたが、アロマの抽出を控えめにするため、もう2℃温度を下げ13℃でマセラシオンを施している！味わいは、マニユ曰く、ミネラルにキレがありエネルギッシュな酒質に仕上がっているとのこと。ちなみに、今年2016年にグルナッシュブランとユニブランを伐根したため、翌年の2015年がマセラシオによるヴァン・ニュ白の最後のリリースとなる！

VdF ヴァン・ニュ 2014 (赤)

2014年のヴァン・ニュ赤は、メルローが10%アッサンブラージュされている！2014年は、メルローが60 hL/haと豊作で、しかもブドウに腐敗果が一切なかったため、味わいに酸とフレッシュさを与えるため、一部を完熟手前で早摘みし、発酵を終えたタイミングでグルナッシュにブレンドしている！仕込みはブドウを全て除梗し、抽出をやさしくするためにルモンタージュもピジャージュも一切しないでそのままタンクを密閉し、そのまま放置。その結果、ワインはいつも以上にみずみずしく、まるで新鮮な赤い果実を口に入れたようなフレッシュさと軽快さがある！

ミレジム情報 当主「マニユエル・クナン&ヴァンサン・ファルジェ」のコメント

2014年は、例年よりも収量の取れた年だが、全体を通して雨が多く、ブドウの糖度がそれほど上がらなかった年だった。春は全般的に天候に恵まれ、とても順調に開花を終えたのだが、6月23日、突然の雷雨とともに局地的に雹が襲い、ヴィオニエの畑の一部が被害に遭った。さらに、7月に入ると、今までの天候がまるで嘘だったかのように、気温の上がる雨がちな天気は8月の終わりまで続いた。9月から再び天候が回復し、ブドウも成長の遅れを取り戻すかのようにピッチを上げていったのだが、収穫期の9月15日、25日の2日間で200 mmの雨が降り、その後すぐにブドウの腐敗が始まった。シャルドネやメルローは豪雨の降る前に収穫できたのでブドウは完璧だったが、グルナッシュやカリニャンは選果が必要だった。特に、晩熟品種のカリニャンは厄介で、豪雨に加えスズキの被害にも遭い、完熟を待たずしてブドウを全て取り入れなければならなかった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

実はドゥー・テールは自社畑でピノノワールを 0.6 ha 持っているが、今はナチュラル生産者にほんの少しブドウを売り、大半がまだワイン農協に卸しているような状況だ。今回の訪問で「なぜピノノワールをドゥー・テールで仕込まないのか？ すごく興味があるので絶対仕込んで欲しい！！」と単刀直入に聞いてみた。ピノノワールはヴァンサンの所有畑で、彼が言うにはワイン農協と結んだ取引契約がまだ終了していないため、現在はドメーヌで仕込むことができないのだそうだ…。取引契約は、まだ彼らがドゥー・テールを立ち上げる前に結んだもので、アルデッシュでは、グルナッシュやメルロー、カリニャンより希少価値のあるピノノワールとシャルドネに人気があり、立ち上げ時に資金が必要だった彼らは、ニーズの強いこの 2 品種についてワイン農協と 10 年の売買契約を結んだそうだ。

「でも？？？シャルドネはもうすでにドメーヌでポラティムを仕込んでいるのに、どうしてピノノワールはまだ契約が続いているのか？」と聞いてみた。シャルドネはマニュの自社畑、ピノノワールはヴァンサンの自社畑と、同じドゥー・テールでも所有者が異なり、それぞれがワイン農協と売買契約を結んでいる。マニュは性格的にせっかちで、交渉事もグイグイ行くタイプ。それに対し、ヴァンサンは穏やかで、争い事を好まないタイプで、どうやら 2 人の性格が契約期間に影響しているようだ。

グイグイ行くタイプのマニュは、契約は 10 年だが、ビオ農法でていねいに育てたシャルドネが農協に機械収穫されるのはやっぱり嫌だと契約の打ち切りを迫り、早々と契約解約となった！一方、ヴァンサンは、押しに弱い性格もあって、打診はするものの未だ農協に頼まれると NO と言えないそうだ…。「ヴァンサンは優しい性格ゆえ断ることが苦手だ。農協との 10 年の契約ももうすぐ終わるが、このままだともうあと 10 年は契約を延ばされそうだ！」と心配するマニュの横でヴァンサンは苦笑い…。マニュは、ヴァンサンの間に入って代わりに交渉することもできると言うが、でもそこはお互いをリスペクトし敢えて深く干渉しないのだそうだ。「俺にないところがヴァンサンにあり、ヴァンサンにないところが俺にある！これがコンビで長くやっていく秘訣だぜ！」とウインクしながらマニュが言う。

2 人のキャラクターがぶつからず、お互いが生きるドゥー・テール。彼らが造るワインの魅力の根本を垣間見たエピソードだ♪

(2016.8.4.ドメーヌ突撃訪問より)